

# 令和3年度自己点検・自己評価委員会（最終）

2022/3/31 富山病院附属看護学校

## ○ 大項目 評価点平均

評価基準： 4点；適切、 3点；ほぼ適切、 2点；やや適切、 1点；不適切



## ○ 大項目における令和3年度の概要と課題

### 1. 教育理念・目的・目標 (3.5)

教育理念に基づいた、目的・目標の達成に向け、COVID-19感染拡大状況を捉えつつ、どのように学習環境を整えるかについての協議を昨年度より重ねている。この成果として8月～9月には蔓延防止等重点措置が発令されたとほぼ同時に、リモート講義をスムーズに導入することが今年度は可能であった。現行、学生への教育の質の確保を試みているが、座学対面での学習環境に勝るものはないことは周知のとおりである。学習目的・目標が協議した学習方法により本当に達成できたかは、今後も注視していく必要がある。また、学生が卒業までに目指すことを明示している内容についても、各学年の指導計画を適宜教員会議にて協議し、学生にも伝えている。看護実践能力に向けての知識・技術・態度の修得に向け、感染予防策を取りながら、可能な限り実習施設での学びを提供し、教員自身の考え方や指導の在り方による評価への影響を最小限にするよう協議し、学びの質の確保をができるようにしている。

### 2. 教育課程 (3.4)

Covid-19の感染状況によって、今年度も授業体制に大きな影響が加わる状況下に見舞われた。変更が生じた場合はその都度、教育計画の実施前・中・後と教授方法の検討および調整を図り、教育理念・教育目標に沿った教授・指導がなされるよう、協働して教育実践に努めることができた。

### 3. 教育活動・教育指導のあり方 (3.4)

今年度はCOVID-19の感染拡大状況を考慮しながら、学生が学習しやすい環境になるよう調整し、リモート授業、実習への対応、技術演習は小グループでの分散登校をしてもらいながら学習を継続できるように検討しながら対応している。感染状況を鑑みたフレキシブルな対応により、今年度必要な学習は習得している。また、教員の負担や偏りのないように担当科目の調整や可能な限り授業の週時間数等を均等になるように工夫し実施した。実習指導過程評価については継続的に、教員の授業評価についても実施しており、結果についてはフィードバックし、更なるボトムアップへ向けて反映させていく。

### 4. 組織・管理運営 (3.7)

昨年度同様にCOVID-19の影響から、学生に感染症対策の徹底の指導や授業構成、実習指導の内容も変更を余儀なくされている。その中でも履修可能となるように内容・方法の検討を行い、母体病院・実習指定病院との情報共有と連携を密に行ってきた。今後も閉校に向けて職員一同、共通した認識を持って運営に取り組んでいく必要がある。

### 5. 学生生活への支援 (3.5)

学生支援体制のシステムがあり、稼働している。感染拡大状況に応じて、対面授業とリモート授業を柔軟に整備している。しかし、学生の経験値は平常時と異なり、制限によって限定的であることは否めず、指導の積み重ねや工夫、日々支援が必要な状態にある。例年、学力および社会人基礎力にも個人差があるが、経験不足や介入の機会の制限にとともに、例年以上に難渋しているところである。社会情勢と合わせて、看護職者としての態度を踏まえた健康管理や自治活動への継続的な支援が必要と考える。そのためにも教員間の連携を図り続ける必要がある。

### 6. 施設整備 (3.2)

COVID-19流行に伴い、感染症予防のため、密にならないよう学習環境を整えているが、今後も継続が必要である。閉校にあたり1学年不在で生じた空き教室を利用し、各座席の間隔を開けるよう工夫を行い、ゆったりとした空間作りを心掛けた。しかし、学生個々の行動範囲は、ほぼ決まっており各々が好んでそれぞれの環境・施設を使用している状況もある。古い建物で、限りある状況であるが、落ち着いた環境を提供できていると考えられる。施設利用に関して制限がある中でも学習できる時間帯を確保すること、学生の居場所となるスペースの提供を行っていくことが必要である。図書貸出しに関しては、紛失防止のために鍵管理を行っている。蔵書点検では、所在不明のものもあり、紛失ゼロとはいかない現状である。図書室利用に手順が多いことは懸念されているが、引き続き学生が安全に、また適切に貸出が行えるように調整していく必要がある。教材に関しては今年度も購入しており、残り1年、点検管理をし、必要なものを担保することで学生に不利益が被らないよう整備していくことが必要である。

### 7. 学生の受け入れ

### 8. 卒業生の状況 (3.7)

COVID-19の感染の影響で、就職活動の機会が大幅に減り、就職の選択の幅も狭まった。このことも関連して、NHOや実習提携病院を選択する学生が多かった。今年度も昨年同様、臨地実習が一部縮小された為、看護実践能力の獲得に向けて実習指導案を協議し計画・実施・評価して臨んだ。国家試験合格率向上に向け、学年担任によるチューター制を活用し、学生の学習状況の確認や相談に乗るなどサポート体制を継続して行い、成績に応じて個別指導も実施した。昨年度不合格者の既卒生についても学習状況の確認や相談に乗るサポート体制を継続して実施した。111回国家試験の結果は全員合格であった。

### 9. 社会への貢献 (1.9)

母体病院や近隣施設と、情報共有や演習用モデルの貸し出しによる現任教育への支援、体育館などの施設共有を通じた連携・協力はなされている。しかし、昨年度に引き続きCOVID-19による影響は大きく、感染防止策をふまえ、他者との交流を控える必要がある環境下であり、社会貢献としての活動が難しい状況にある。昨年度からの交流控えもあり、学校・学生ともに、地域との連携や国際的視野を持つための工夫が滞ってしまっている。交流が可能となったときに、学生が少しでも活動していく機会が得られるよう、得られた情報を学生へ提示し、広報活動・参加の呼びかけを行い対応していく事が求められると考える。

### 10. 研究・研修活動 (2.2)

昨年同様、研修や費用の保障はあるが研究発表や論文投稿などの実績は少なく十分とは言えないが、全教員がNHU東海北陸の看護教員対家の授業研究活動に関わり、昨年度より活用できたと考える。研究をする風土については醸成していく必要がある。また、COVID-19の影響により、研修や学会がリモートでの開催が増えつつあるため、活用していく必要がある。

また今年度、外部講師として社会のニーズに合わせた講義し社会貢献することが微力ながらできたのではないかと感じている。講師は3名で昨年度より増えているが、より地域への役割を果たすために活動の可能性を探る必要もある。

### 11. 研究・研修活動 (3.4)

自己点検・自己評価は、勤務異動などによる役割変更があった際に引き継ぎがスムーズに進むような工夫を盛り込んでいる。また教育の質の確保や学習環境を整えるのためにマニュアルを整備し、資料を共有できるような体制整備に努めている。刻々と変化する感染対策に関して、実施レベルで各教員の判断に違いが出ることがないよう、基盤づくりを行い実施している。